

集義の星

しゅうぎのほし

~LOVE & JUSTICE~

本渡北小学校
学校通信
令和6年7月5日
文責・木村純一

06

「命を大切にできる心」を育む授業

授業参観、
お世話になりました

6月28日金曜日は、「命を大切にできる心」を育む授業参観に多数参加いただきありがとうございました。生憎の荒天となりましたが配慮いただきありがとうございました。学校は何のためにあるの？何を学ぶの？と聞かれれば、「命の大切さを、そして生きるために大切なことを学ぶところ」と答えます。国語で学ぶ言葉の大切さも、算数で学ぶ処理能力も、社会で学ぶデータから想像する力も、体育で学ぶ健康作りも、すべてはそこにつながっていると思っています。担任はこの日、道徳、学級活動等、「命を大切にできる心」を育む授業を用意しました。子どもさんの学びはどうだったでしょうか？

そして、私は先日「命を大切にできる心」を育てているのは私たちだけではないと学ぶ機会がありました。本渡北小の児童が、下校途中に気分が悪くなり、熱中症のおそれがあると、実に早い段階で、地域の方が声をかけてくださり、病院で無事

を確認できたと言うことがありました。おかげさまで保護者の方にも、本渡北小にも、連絡が入り、早急な対応ができました。その話を聞く中で、この件に関わってくださった地域の方は実は1人ではなかったということがわかりました。まず、発見していただいた方がいます。その次に、救急車を呼んでいただいた方がいます。さらに、当該児童に飲み物を買ってくださった方もいました、私は想像するに、実にたくさんの方が、そこに困っている人を放っておかない光景があって、放っておけない人たちが地域にいらっしゃることに感動しました。(許可をいただき掲載しています)



6/17「子育てのものさし」
の記事はコチラです!→



↑本渡北小
HPはコチラ



←4年理科「とじこめられた
空気と水」実験動画は
コチラです!

子育てのものさし

ホームページにこの記事を書いたとき多く感想を
いただいたので学校通信に転載しました。

子育てって難しいと思います。言ったようにできないこともあり、また意に反して行動してしまうこともあり、子育ての悩みは尽きないと思います。誰もがそう思うことではないかと思えます。

ご家庭では、子供を褒めるとき、叱るとき、どんなことを基準にしておられますか？していいことと、してはいけないことの境界線ってどこですか？

30年以上子どもたちを見ていて思うのは、子育ての判断基準は、社会人となったとき生きて働くかそうでないか、というところだと思います。例えば、「してあげる」というシンプルなことにも、してあげた方が将来のためになるのか、してあげない方が将来のためになるのか、ということだと思います。優しく手を差し伸べるのも大切だと思います。でもそれが当たり前でないことを知らせることも大切かもしれません。

子育ての瞬間はもちろん今ですが、子育ての判断基準は「今の子供の笑顔だけじゃなく、社会人となったとき生きて働くかそうでないか」という少し先のことを考えることで、子供の成長につな

がるいい判断ができるかもしれません。

私の家の話をします。小学校のときから、基本自分の力で移動する、が我が家の方針でした。雨で足が濡れる、靴が濡れるも大切な経験、が我が家の方針でした。こんなことがありました。うちの子は中1の最初の休日部活動に寝坊しました。「今日ばかりは送ってあげようかな」と私が心の中で行動を始めようとしたとき、妻は「自分の責任なんだからね、走って行きなさい!」と言い放ちました。私はその瞬間自分の甘さを反省したのですが、「送ってあげようか」と口に出す前でもかかったと思ったところでした。

妻とよく話をします。あの子のターニングポイントはあのときだったね、と。その後6年間、「送って」ということもなく、自分の部活動であれば天草内は自転車移動していました。生きる力になったと思っています。まあ、父親は心の中で一瞬送ってあげようとしたことは今でも秘密ですが。

